社說

公債賣出しの方法

一昨年來引續き騰貴したる內國の諸物價が昨今に至りて多少下落の傾を呈したるを見て遠からず經濟社會は從來の變態を恢復するを得べしと考ふる者あるが如くなれども實は非常の遠歸にして貿易上に輸入超過の勢、尙ほ其跡を收めず償金回收の都合に依りて何時正貨の流出を招くやも計り難き場合に物價が多少下落したればとて直に金融の緩和を望み金利の下落を期す可らず眞に經濟社會が常態に復するは物價の下落が貿易上に影響を及ぼして輸出超過の實を收めたる時にして昨今の如く內國主要の輸出品が盡く物價騰貴の餘響を受けて生產費を增加したる爲めに著しく外國市場の需要を減じて輸出高に意外の減少を來しいよ〳〵輸入超過を激成するが如き場合は未だ貿易上に平均を見るの時に非ざる可し即ち今春來日本銀行の公債買入れの爲めに諸銀行は所有の公債價格を增して意外の利益を受けたるにも拘はらず金融は依然逼迫して毫も事業家に公債買入れの効能を及ぼさゞる所以にして貿易上の趨勢にして改まらざる以上は決して金融の緩和を望む能はずと斷言して差支なきが如し果して金融市場の前途にして斯の如くなりとすれば政府は如何にして公債募集の目的を遂して三十二年度以後の歲計に於て臨時費を支辨せんとするや假令ひ政府が本年中に國庫に所有する銀塊を處分し終りて其賣却代金を償金に繰入るゝも償金の殘餘は四千萬圓內外に過ぎず若しも明年度の歲計に意外の不足を生じて償金の一部を普通歲入に繰入るゝ他の一方には內國債募集の道を得ずして償金を以て之を繰替へんには直に財源に不足を訴へざるを得ず目下の財政にして斯る窮狀に陷れりとすれば明年度の歲計を維持するに當て政府が所有の公債を海外に賣出すの必要あるは甚だ明白にして當局者に於ても既に此邊の憂慮あるが如くなれども賣出しの方法に就ては大に注意を要するものあり前內閣は公債條例を改正し外國に賣出す公債の元利金は一切外國貨幣を以て算出するみとゝして賣出しの場合に充分の信用を收めんと企てたり外國資本家の間に我國の實情を知らずして金貨本位の維持に就て疑念を懷く者も少なからざる由なれば斯る改正も自から必要なる可けれども我輩の所見を以てすれば政府が所謂割引發行法を用ひ公債の利子を低くして額面以下に賣出さんには五分の公債を額面以下に賣出すの場合に比して利益を收むると少なからずと考ふる者なり其次第を述べんに例へば倫敦市場に於て我國の信用を試てすれば三分半利付の公債を額面にて賣出すを得るの見込、立たんには利子を三分とし額面以下の相場にて賣出す可し之を買入るゝ者の方より見れば何時抽籤に依て額面の償還を受くるやも計り難きを以て自から其間に投機心を促して價格は額面近くまで騰貴し利率に比して割高の相場を保つを得る其反對に五分の利子を付して額面以上に賣らんとすれば直に額面にて償還せらるゝの危險あるを以て利子の高き割合に相場の騰貴を見ざる可し外國の政府が公債募集の場合に明に實驗する所にして著明の一例を擧ぐれば佛蘭西政府は千八百五十四年クライミヤ戰爭の頃、利率を異にし以て二種の公債を發行したり當時四分半利付は九十二法の價格にして兩相場より割引さんには三分利付の分は六十法內外の價格に止まる可き筈なるに實際は六十五法に騰貴したりと云ふ割引發行の利益ある證據にして資本家の投機心を促さんには斯る好結果を收むるは決して難事と云ふ可らず域は當局者の間には償還期限を永くして外國資本家の信用を買ふ可しとの說ある由なれども是れは割引法の便利なる事を知らざるより出でたるものにして我國の如き今後利子下落の望ある國柄に於て永く高利の仕拂を約束するが如きは策の得たるものに非ず我輩が當局者の注意を促す所以なり

○新條約實施に關する諭告

明年七月より新條約實施に付板垣內務大臣は本日の官報を以て一般人民に對し左の如き諭告を發する筈なり

政府は來る明治三十二年七月以降新條約を實施する事に決し既に各締盟國に向て條約上規定の通知をなせり惟ふに現行條約改正のみとたるや維新以來朝野の翹望する所にして今や其氣運既に臻り列國と均等の交を爲すあと將に朞年の後に在らんとす抑も既に權利を得れば亦之に伴ふ義務を果さゞるべからず我國民の外人に對する接遇如何は啻に我文化の進度を表するのみならず實に國家の面目に關れり我國民たる者宜しく宏量寬恕以て之に接し好情友意以て之を待ち益々進みて國民の榮譽を發揮し帝國の光榮を顯揚する事を努むべし

右諭告す

同時に內務大臣より各地方長官に對し新條約實施に就ては國民の外人に接するもの多く爲めに我國の體面を毀傷し且つ條約實施の前途に障害を來すが如き事ありては容易ならざる事柄に付各地方長官は一般人民へ諭告の精神に基き此際將に誨告指導を加へて過なからしめん事を期し必要に應じては取締の方法をも設け諭告の主意を貫徹する事に努む可き旨內訓を發したる由なり

○臺北の洪水

臺灣貿易會社臺北支店より昨日午前六時橫濱の同本店に着せし電報によれば臺北に洪水あり人畜の負傷多かりし由

○獨逸新聞の辯解

フリッピンの反徒がグランデ嶋を襲撃せんとするに當り獨逸軍艦イレチ號の西班牙兵を援けて反徒に妨害を加へたる事は去る頃の上海舊進步黨員にても現內閣に對して不平あるものが憲政黨を脫すればとて其不平を慰むるに足らざるのみならず脫黨して獨立するも國民協會に入るも從來憲政黨に在りての不平より更に甚だしき不平の起るべきは本來不平より生ずる脫黨者に於て免れ難き先天の病根なり內閣なるに關らず意外に現內閣の永續すべきを斷言せんと欲す其次第は舊自由黨員にても容易に脫黨せざる以人情の然らしむる所なり而して又舊同黨員は勢ひ必ず睨み合ひの姿にて日を送るべき理由あり抑も憲政黨は其組織の無造作なりしにも關せず名正しく辭職なるが故に舊自由黨員先づ脫黨すれば舊進步黨は踏み止まりて他人交ぜずの憲政黨を造るべし舊進步黨の脫する場合も亦同じ斯く自由、進步の兩黨員が自から脫黨せずして他の脫黨を望み居るの事情、否な望まざるを得ざるの事情は互に相氣兼し又互に相猜忌して知らず識らず憲政黨を永續せしむるものなれば隨て現內閣の運命も案外に長かる可しと某政治家は云へり

○獨逸艦の試運轉

來國に注文したる帝國軍艦笠置の試運轉は去月十二日同國ニューハムプシャー州ブーン嶋とポートポイス嶋との間に行はれたる由にて四十哩間駛走の結果能く通常通風二十一哩六八、强壓通風二十二哩七五の速力を示したり本艦注文の際には速力規定より優等なる事ありとも更に獎增金を與ふべしなど云ふ契約なりしに拘らず通常通風廿哩五〇の速力を得たる時は罰金を課する約束なりし然るに斯く試運轉の結果は增定以上の好成績を現はしたり尙ほ同艦は同日午後ポーツマス港に入るに當て日本旗を掲揚し十三日ナヲデルフヤに向けての航途に就く六時間駛航試驗を行ふ筈なりしと米國新聞に見えたり

○笠置艦の試運轉

○現內閣は案外に永續す可し

（某氏の觀測）

憲政黨の現內閣を組織するに至りたるは唯第十二議會に於て自由、進步の兩黨が伊藤內閣の增稅案に反對したる行掛りよりトン〳〵拍子に新政黨を組織し其新政黨へ伊藤が內閣を明渡したる迄なれば何の變作も無く政府の授受を結了したれども憲政黨組織以後に於て自由、進步の兩黨が苦辛を共にしたるみと無きは勿論、大隈、板垣の兩人も共に逆境に立つみと無くして俄に棚から牡丹餅の政府受取人となりたる事とて首領間士も子分同士も眞實に融和せざるより其間種々策士の言說に動かされて有らぬ猜疑を生じ結局離間中傷の禍中に投ぜられて今に憲政黨は破裂するかの如く懸念するものあれども是れ未だ政黨の眞味を知らざる者の言にして取るに足らず若しも予をして忌憚なく言はしめんか予は其不整頓なる憲政黨より組織されたる內閣なるに關らず意外に現內閣の永續すべきを斷言せんと欲す其次第は舊自由黨員にても舊進步黨員にても現內閣に對して不平あるものが憲政黨を脫すればとて其不平を慰むるに足らざるのみならず脫黨して獨立するも國民協會に入るも從來憲政黨に在りての不平より更に甚だしき不平の起るべきは本來不平より生ずる脫黨者に於て免れ難き先天の病根なり上に苟も獨立するも他黨に入るも門外一步憲政黨より息を脫出せば其れまを最後、獨立の網は全く絕之果つるに依り若しも憲政黨員にして今後脫黨するものありとすれば獨立者に非ずして必ず黨籍者なるべし然れども其黨籍者は憲政黨中無人もなきのみか假令ひ十數人を以て數ふる程ありとするも性來斯る人物は大隈にも板垣にも伊藤にも離れにも心服し居らざると共に憲政黨に反對すればとて後の內閣を組織すべき人にも贊成せず云はゞ大利なる代りには大害なき迷中なり事情此の如き中に獨立者に在りては其區別者は固より未獲者に至るまで現內閣の永續せんとを願ひ居るに依り舊自由黨員にても舊進步黨員にても容易に脫黨せざる以人情の然らしむる所なり而して又舊同黨員は勢ひ必ず睨み合ひの姿にて日を送るべき理由あり抑も憲政黨は其組織の無造作なりしにも關せず名正しく辭職なるが故に舊自由黨員先づ脫黨すれば舊進步黨は踏み止まりて他人交ぜずの憲政黨を造るべし舊進步黨の脫する場合も亦同じ斯く自由、進步の兩黨員が自から脫黨せずして他の脫黨を望み居るの事情、否な望まざるを得ざるの事情は互に相氣兼し又互に相猜忌して知らず識らず憲政黨を永續せしむるものなれば隨て現內閣の運命も案外に長かる可しと某政治家は云へり

○叙任辭令

日本郵船株式會社臺湾支店より命ズ（八月四日）

陸軍大將　侯爵　山縣有朋

陸軍大將　伯爵　大山巖

陸軍大將　伯爵　川上操六

陸軍大將　伯爵　西鄕從道

陸軍大將　伯爵　黑田清隆

陸軍大將　伯爵　樺山資紀

陸軍大將　伯爵　大島義昌

陸軍大將　伯爵　野津道貫

陸軍大將　伯爵　川村景明

陸軍大將　伯爵　大山巖

陸軍大將　伯爵　西鄕從道

陸軍大將　伯爵　黑田清隆

陸軍大將　伯爵　樺山資紀

陸軍大將　伯爵　大島義昌

陸軍大將　伯爵　野津道貫

陸軍大將　伯爵　川村景明

陸軍大將　侯爵　山縣有朋

陸軍大將　伯爵　大山巖

陸軍大將　伯爵　川上操六